

お客様プロフィール



フェリス女学院大学

所在地：横浜市泉区緑園4-5-3(緑園キャンパス)
横浜市中区山手町37(山手キャンパス)

URL：<http://www.ferris.ac.jp>

建学の精神と教育理念

フェリス女学院は、キリスト教の信仰に基づく女子教育を行うことを建学の精神としています。さらに、フェリス女学院は「For Others」という教育理念を掲げています。これは、建学以来の永い歴史のなかで自然に人々の心の中で形をなし、学院のモットーとして受け継がれるようになったものです。

導入のポイント

高いパフォーマンスと費用対効果 安定性

ラッカスワイヤレスの無線LANソリューションの導入により、キャンパス内のネットワークカバー率100%を低コストで実現

導入製品

コントローラ：「Ruckus ZoneDirector 3000」×2台
(冗長構成、緑園キャンパス設置)

アクセスポイント：「Ruckus ZoneFlex 7372」×83台
(緑園キャンパス74台、山手キャンパス9台)

学修環境の整備を目的とした無線LAN コストとパフォーマンスに優れたラッカス

横浜市の泉区と中区に2つのキャンパスを構えるフェリス女学院大学では、学生に対するサービス拡充の一環として、カリキュラムの充実や交流スペースの新設など、学修環境整備に力を入れている。この一つの取り組みとして行われたのが、ITインフラの整備。学生が持ち込むノートPCやスマートフォンに対し無線LANによるインターネット接続を提供したり、ノートPCの貸出を行ったり等、積極的に取り組んでいる。そしてこの無線LANネットワークのインフラを支えているのが、ラッカスワイヤレスの無線LANソリューション。高い費用対効果で、2つのキャンパスにおいて、広範なサービスエリアと安定した通信環境を実現している。

充実した学修環境の提供とネットワークインフラの重要性

フェリス女学院大学は、キリスト教の信仰に基づく女子教育を行うことを建学の精神に、「For Others」という教育理念を掲げた、人文と芸術からなる文系大学。学生に対しより充実した学修環境を提供することが自分の役割であると、フェリス女学院大学国際交流学部教授で、現在は情報センター長も兼任する春木良且先生は言う。「中学や高校では決まりを教えるが、大学は学びを教える場です。それを支援するために私たちができるのが、場所とカリキュラム、そしてシステムの充実という学修環境の整備です。学生たちが自由に集い議論する場所を提供し、それぞれの目標に合わせたカリキュラムを充実し、そして今日の情報の取得や意見交換には欠かせないITインフラを整備する。このITインフラの中でも、その基盤となるネットワークインフラをどのように充実させるかは重要な課題でした。」

低コスト、容易な導入、そして安定動作

フェリス女学院大学では、以前から全校的に無線LANシステムを導入していた。しかしキャンパスの一部エリアではつながらないなどの問題もあり、新しいシステムを検討していた際に参加したINTEROPで、ラッカスワイヤレスの製品と出会った。フェリス女学院大学情報センターで専任講師を務める内田 奈津子先生は言う。「多くの学生をかかえて、大きな教室もあるという大学組織の性格上、あらゆるところでまなくネットワークにつながる環境の構築は非常に難しいと思います。ラッカスワイヤレスの製品に加え、他製品の比較検討ならびに検証を実施した結果、同社のアクセスポイントが最も費用対効果が高く、旧システムが抱える課題を解決できるとの結論に至り、導入を決定しました。」

そして実際のシステム構築にあたっては、大きな問題に直面することもなく、導入を決定してから1~2ヶ月という短い期間でサービスを開始できたと言う。構築や導入後についても、「以前のシステムよりも低コストで導入・構築ができたことに加え、防音室等の特殊環境をのぞいては、2つのキャンパスのどこにいても安定した無線LANサービスを提供することが可能になりました。当校の情報センターには、コントローラを操作できるスタッフが3~4名おりますが、その存在を忘れてしまうほどラッカスワイヤレスで構築したシステムは安定稼働しており、インフラとして果たすべき役割を果たしていると言えます」と語っている。

導入事例 フェリス女学院大学



フェリス女学院大学
国際交流学部教授 情報センター長
春木 良且 先生



フェリス女学院大学
情報センター 専任講師
内田 奈津子 先生



NTTデータカスタマサービス株式会社
ソリューション事業部 課長代理
小林 秀樹 氏

大学の環境に適応したラッカスワイヤレスの無線LAN製品

フェリス女学院大学では、現在83台のアクセスポイント (Ruckus ZoneFlex 7372 *1) を2台のコントローラ (Ruckus ZoneDirector 3000 *2) で管理している。コントローラは泉区の緑園キャンパスに設置し、2つのキャンパスにある全てのアクセスポイントを管理。それぞれのキャンパスには、常時100人前後 (中区山手キャンパス) と900人前後 (泉区緑園キャンパス) の学生がおり、それぞれに9台と74台のアクセスポイントが設置されている。無線LANシステムは、学生だけでなく、もちろん教職員の日々のコミュニケーションや授業にも欠かせない。ネットワーク構成やアクセスポイントの設置にあたり、今回のシステムを構築したNTTデータカスタマサービス株式会社 ソリューション事業部 課長代理の小林 秀樹氏は言う。「以前のシステムでは、山手キャンパスの無線通信において、必ず緑園キャンパスに設置されたコントローラを経由するなど少々煩雑な構成でしたが、今回の導入にあたりシステムを一から見直し、できるだけシンプルに、そして管理が容易になるよう設計しました。また、大学特有の環境として、本や書棚が多いことが上げられます。書棚に囲われた部屋が並んだ建物内は電波を通しにくく、無線LANにとっては過酷な環境です。この点、信号パターンと到達経路をリアルタイムに制御し、干渉や障害物を回避して最適経路を選択する技術を持つラッカスワイヤレスは最適な製品でした。」

*1 Ruckus ZoneFlex 7372は、デュアルバンド同時運用802.11n SMART Wi-Fiアクセスポイント。

*2 Ruckus ZoneDirector 3000は、最大500個のアクセスポイントと10,000クライアントの管理に対応したコントローラ。

様々な活用方法と今後の展開

現在、フェリス女学院大学において、無線LANシステムは主にインターネットアクセスに用いられているが、先生や授業によっては、さらに有効活用されていると言う。例えば、授業で動画が多く用いられるようになったり、クラウドサービスを利用してファイルの共有が活性化したり。そして春木先生は言う。「環境が整った今、今度はそれをどのように使っていくかが重要となってきます。例えば、私は授業でTwitterにハッシュタグを用いて活用したり、Wikiのリーダーを学生に使わせたりしています。これにより、学生がどんなキーワードを最も検索するかを見ることができ、自分の授業で学生が分からなかったのはどこかなどを知ることができます。」そして今後の展開として、「自分たちでシステムの有効活用を考えていかなければいけないと考えています。学生のニーズを最も把握している私たちがそれを汲み取り、よりよいサービスを提供していく。アプリケーションも応用がないと意味を持たず、そこを考えて授業支援のシステムに使っていきたくて考えています」と語る。